

## 【開催趣旨】

信州大学松本キャンパス内の旧松本歩兵第五十連隊糧秣庫、通称赤レンガ倉庫は、1908（明治41）年頃に竣工した建造物であり、松本の近代を今に伝える貴重な歴史遺産として、国の登録有形文化財に登録されています。

現在、その一部は医学部の資料室として使用されていますが、全体としては、百年以上の歳月を経て老朽化が進み、本格的な補強・改修が待たれる状態にあります。

本シンポジウムを主催する私たちの願いは、この大切な文化財が松本キャンパスのシンボルとして、また文化都市・松本のシンボルの一つとして末永く保存維持され、さらには大学と地域の共通財産として広く活用されることです。そのためには、今、何が可能でしょうか。何から始めるべきでしょうか。信州大学創立70周年を迎えるこの機会に、赤レンガ倉庫を通して松本と信州大学の歴史を振り返り、また日本各地の同様な歴史遺産の現状にもふれながら、さらには私たちの未来—赤レンガ倉庫がいつそう魅力を放つキャンパスとまちの姿—について、ご参加のみなさまと存分に語り合えればと思います。また、本シンポジウムを起点として、赤レンガ倉庫のためのファンディングを開始する予定です。学内外の多くの方のみなさまのご賛同を得て、創造的かつ実践的な事業を展開できればと願っております。

## 発 表 者



**福島正樹**  
(信州大学大学史資料センター特任教授)



**田中榮司**  
(信州大学医学部長)



**久保 亨**  
(信州大学人文学部特任教授)



**金井 直**  
(信州大学人文学部教授)



**土本俊和**  
(信州大学工学部教授)

## コメンテータ



**赤羽郁夫**  
(松本市教育長)



**笹本正治**  
(長野県立歴史館館長)



**小内翔一**  
(信濃毎日新聞社松本本社報道部記者)



**濱田州博**  
(信州大学学長)



**武者忠彦**  
(信州大学経法学部准教授)

## 総合モデレーター